

# 2019年3月期 決算説明会

フィールズ株式会社  
東証一部 2767  
2019年5月16日

# 2019年3月期 決算概要

## <2019年3月期 連結業績予想と実績との差異>

当期の連結業績につきましては、上記(1)の表の通りとなりました。前回発表予想との差異の理由は、以下の通りです。

当社グループにおける著作権等のライセンス許諾売上および収益につきましては、従来、ライセンス許諾時に一括計上しておりました。それを受けて、2019年3月6日付「業績予想の修正に関するお知らせ」は契約済ライセンス許諾の売上および収益を織り込んでいました。その後の事業活動の進捗において、計画に対し収益面では、営業利益約2億円で着地する見込みとなりました。

しかしながら、監査の最終段階において、ライセンス許諾の分割回収に関する売上計上方法を監査法人と協議した結果、長期分割回収による許諾売上に関しましては、代金回収の都度、計上することとなりました。これは、ライセンス許諾の大型化に伴う分割回収案件の増加を受けて、売上の実態をより適切に反映させるために行うものです。

以上の結果、当期に見込んでおりましたライセンス許諾売上および収益のうち、長期分割回収による約16億円が、次期以降の代金回収時に計上することとなりました。

今後につきましては、高度化する会計諸制度等について、様々な観点から随時監査法人との意見交換を行い、また、その他外部の専門家等の助言、見解等も参考にしながら、経営管理の充実を図ってまいります。

# 2019年3月期決算 [連結P/L]

(単位：億円)

連結P/L	2018年3月期	2019年3月期							
	通期	2018年5月 通期計画	2019年3月 修正計画					通期	前年同期 増減額
				1Q	2Q	3Q	4Q		
売上高	610.5	950.0	530.0	89.3	91.1	195.7	140.2	516.3	△94.1
売上総利益	134.0	170.0	-	14.2	24.3	63.2	35.9	137.6	+3.6
販管費	191.3	150.0	-	41.5	36.0	36.7	36.9	151.3	△40.0
営業損益	△57.3	20.0	0	△27.3	△11.7	26.4	△1.0	△13.6	+43.7
経常損益	△52.0	25.0	0	△27.5	△13.0	27.4	△0.8	△13.9	+38.0
親会社株主に帰属する 当期純損益	△76.9	15.0	7.0	△29.5	△2.9	32.3	△2.8	△2.9	+73.9

## 【PS販売台数】

(単位：台)

パチンコ	95,778	-	-	19,895	12,927	37,026	33,931	103,779	+8,001
パチスロ	95,679	-	-	3,341	6,863	9,983	14,057	34,244	△61,435
合計	191,457	-	-	23,236	19,790	47,009	47,988	138,023	△53,434

# 2019年3月期決算 [連結B/S、連結C/F]

(単位：億円)

連結B/S	2018年3月期	2019年3月期	増減額	主な増減要因
流動資産	421.7	482.2	+60.4	現金及び預金の増加、たな卸資産の増加
（現金及び預金）	244.7	289.0	+44.3	
有形固定資産	52.7	61.6	+8.8	
無形固定資産	13.8	31.7	+17.8	のれんの増加
投資その他の資産	234.9	106.3	△128.6	長期貸付金の減少
<b>資産合計</b>	<b>723.3</b>	<b>681.9</b>	<b>△41.3</b>	
流動負債	224.8	217.5	△7.2	仕入債務の減少、短期借入金の増加
固定負債	143.4	113.3	△30.0	長期借入金の減少
純資産	355.0	351.0	△4.0	
<b>負債純資産合計</b>	<b>723.3</b>	<b>681.9</b>	<b>△41.3</b>	

連結C/F	2018年3月期	2019年3月期	当期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	△10.9	21.7	税金等調整前当期純損失△0.2/仕入債務の減少△26.6/売上債権の減少+16.5/関係会社株式売却損益△13.4/減価償却費+12.3/出資金償却+10.7/持分法による投資損益+4.5
投資キャッシュ・フロー	43.9	32.1	連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入+28.1/関係会社株式の売却による収入+18.0/固定資産の取得による支出△13.9
財務キャッシュ・フロー	△20.2	△9.6	長期借入金の返済による支出△25.8/短期借入れによる収入+18.0/配当金の支払△1.6
現金及び現金同等物の増減額	12.8	44.3	
現金及び現金同等物の期首残高	230.9	243.7	
現金及び現金同等物の期末残高	243.7	288.0	

# 今期の取り組み

## 事業方針

マーケティング分析を基礎に

市場ニーズに寄り添う最適商品の企画・開発・販売

- ・ 開発商品の徹底的な見直し・ブラッシュアップ等
- ・ 人気の高いシリーズ機の投入

## 流通健全化 事業

- ・メーカー9社と提携し、5,500店舗の設置・点検業務を受託
- ・メーカー数および受託件数を拡大

## 中古流通 プラットフォーム

- ・セキュリティ対策と書類発行ルールの変更に対応中
- ・システム再構築に取り組み、早期のサービス提供を目指す

## モバイル ターゲティング 広告事業

- ・パチンコホール900店舗へ導入
- ・他業界（飲食・SC等）への展開を拡大

## メディア ソリューション 事業

- ・「ぱちんこパチスロ情報ステーション」  
7月より配信予定





## 『ULTRAMAN』

### 【世界展開】

- NETFLIXにて4月より世界配信 ※中国除く  
NETFLIX注力作品として、  
TVCM他大規模なプロモーションを実施
- 視聴者からの反響・NETFLIXの評価共に大  
韓国・タイ・マレーシアをはじめアジア各国でも反響大

### 【中国展開】

- 中国はテンセント・bilibili・他7社で配信  
⇒ 中国における推定視聴数は7,000万回/月



『ULTRA HEROES TAMASHII』@上海  
2019/3/1~3/31開催

## 【中国展開】

- 中国内地初の“大人をメインターゲットとしたウルトラマンイベント”『ULTRA HEROES TAMASHII』を上海市内のショッピングモールにて開催
- ⇒ 1ヶ月間の開催で来場者は**70万人超**

## 【欧米展開】

- 米国・欧州についても積極的な展開を始動
- 過去ライブラリーの販売を皮切りに世界戦略を推進
- ⇒ 6月の北米ライセンスエキスポに出展予定

## 当社グループ総力を挙げて国内外の事業拡大を推進

映画

コスト から 収益事業へ

グッズ宣伝の映画

魅力ある映画

キャラクター  
ビジネス

企業タイアップによる収益化

グローバル

戦略的拡大

中国を中心としたアジア → 北米

## 経営体制（2019年4月～）

### 塚越 隆行（代表取締役 会長／CEO）

ディズニー・ジャパングループにて、ビデオグラム・映像分野における主要職を歴任

主な経歴：フエナ・ビスタ・ホーム・エンターテイメント 日本代表(2000年)

ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン (2010年)

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 エグゼクティブ・プロデューサー (2016年)

### 永竹 正幸（代表取締役 社長／COO）

金融、アパレル業界を経て、直近10年玩具業界で戦略・海外事業を担当

主な経歴：ゴールドマン・サックス証券株式会社 (1999年)

ユニクロ(U.K.)LTD. (2002年)

トミーインターナショナル 社長兼最高執行責任者 (2016年) 米国では玩具業界の理事を経験

# 今期の見通し

## 上半期

1Q販売 GANTZ:2 2.5万台

その他販売 1.5万台

2Q販売中 Sグレンラガン

**7機種**

## 下半期

**11機種**

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期 見通し	
	通期	通期	増減額
営業利益	△13.6	15.0	28.6
経常利益	△13.9	15.0	28.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	△2.9	10.0	12.9

➡ 中期経営計画の3カ年利益計画に関しては、改めて発表予定

## 免責事項

本資料に掲載されている弊社の計画、戦略、予想等は、すでに確定した事実を除き、潜在的リスクや不確定要素を含んでおり、その内容を保証するものではありません。

潜在的リスクや不確定要素には、弊社の主たる事業領域でありますパチンコ・パチスロ市場を中心とした経済環境、市場における競争状況、弊社の取扱商品等が考えられますが、これらに限るものではありません。